

# 頸動脈ステント留置術

(Carotid Artery Stenting : CAS)

頸動脈は脳に繋がる首の重要な血管（動脈）です。

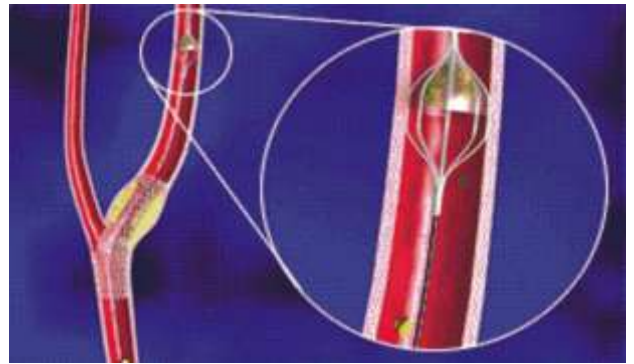
この動脈が細くなると、血の流れが悪くなり、血管が詰まったり、血の塊（血栓）が出来る事があります。首の血管が詰まると、広い範囲の脳梗塞になる事があります。また、血栓が剥がれ落ちて、血の流れによって脳に運ばれる事で、脳の細い血管が複数箇所詰まって、多発脳梗塞を起こす事もあります。

ある程度以上、血管が細くなっている場合、内科的な治療（血を固まり難くするお薬）よりも外科的な治療を行った方が、大きな梗塞などを起こす可能性が低い事が証明されています。

外科的な治療方法としては、手術で首の血管を露出して、切り開き、血管の壁についたコレステロールなどの物質（プラーク）を直接取り除く方法（頸動脈内膜剥離術：CEA）と足の付け根から3mmほどの細い管（カテーテル）を挿入し、これを首の血管まで進めて、血管を内側から広げて補強する方法（頸動脈ステント留置術：CAS）の2種類があります。当院ではCASを行う事が出来ます。

## 頸動脈ステント留置術：CASは

血管の細いところを風船で拡張した後、ステントという金属製の網目構造の筒で拡張した部分を補強するものです。このときに、血管の細くなったところに付着したプラークが剥がれ落ちて脳梗塞にならないように傘のように開くフィルターを進めておいて、剥がれたプラークを捕捉する仕組みになっています。



ステント留置後



当院で行った  
CASの症例写真

気になる方は、まず頸動脈の超音波（ドップラー）やMRI（MRA）などで、首の血管を調べてもらいましょう！

頸動脈ステント留置術を行うには実施医の資格が必要です。当院では実施医資格のある放射線科医が手術を行います。神経内科や循環器系診療科とのチーム体制で行っています。外来診察は神経内科が窓口になっています。